

ジャックは、 な男の子がいました。名前はジャックです。 なまえ じゃっく むかしむかし、あるところに、とても元気 お母さんと二人で暮らして

ジャックは毎朝、 じゃっく まいあさ いました。 家な にはお金がありませんでしたから、

行きました。ミルクを売って食べ物を買うのい 牛のミルクを町へ売りに
がるく
まち
う

、ある日、牛のミルクが出なくなりました。お母さんは言いました。

「困ったわ。もう、ミルクが出ない…。どうしましょう」

ジャックは言いました。

「じゃあ、お母さん、この牛を売りましょう」

ジャックは、牛を連れて町へ歩いていきました。

じゃっく

すると、一人のおじいさんに会いました。おじいさんは、 右手に袋を持って

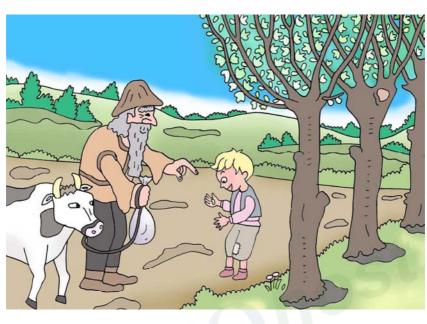
いました。

「おじいさん、こんにちは!」

ジャックが元気に言うと、おじいさんは言いました。じゃっく
げんき
い

「牛を連れてどこへ行くんだい?」

「町へ売りに行くんだよ」



「そうか…。その牛がほしいな。この豆を

あげるから」

「え? でも…」

おじいさんは、右手の袋から豆を一つ

見せて言いました。

持っていると、 「これは『魔法の豆』だよ。この豆を

お金持ちになることがかねも

魔法の豆!」

「わあ!

できるんだ」

ジャックは豆を一つもらって、喜んでじゃっくまめなど

家に帰りました。

お母さんは、ジャックに言いました。

「馬ば 鹿! 馬鹿な子だね!

ジャックは馬鹿だよ」

「でも、これは、 お金持ちになることができる魔法

馬鹿だね!」

豆なんだよ」

「魔法?

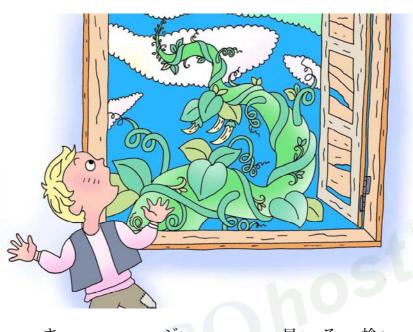
お金持ち?

お母さんは、豆を窓の外に捨てました。



0

EBSCO Publishing: eBook Collection (EBSCOhost) - printed on 10/24/2016 8:54 AM via JAPAN FOUNDATION AN: 1129883 ; 佐々木英子, 多言語多読, NPO.; ジャックと豆の木 : イギリス民話より = Jack and the beanstalk Account: ns244998



その木は、とても高くて上のほうが

見えませんでした。

「あの豆は、本当に魔法の豆だジャックはびっくりしました。

ジャックは、大きな豆の木を見て思いました。じゃっく おお まめ き み おも 「あの豆は、本当に魔法の豆だったんだ!」

ジャックは、すぐに豆の木を登っていきぃゃっく まめ き のぼ のぼー―上まで登りたいなあ――

ました。

まめ おお き次の朝、ジャックが起きると、お母さんのつぎ あさ じゃっく お

7

EBSCO Publishing : eBook Collection (EBSCOhost) - printed on 10/24/2016 8:54 AM via JAPAN FOUNDATION AN: 1129883 ; 佐々木英子,多言語多読,NPO.; ジャックと豆の木 : イギリス民話より = Jack and the beanstalk Account: ns244998

登っても登っても

一番上に着きません。

見えます。ジャックは、下を見ると、家が小さく

また登りました。下を

見ても、もう家は見えゅん

ません。

そして、一番上にいちばんうえ

着きました。

ジャックが周りを見ると、
じゃっく
まわ
み 花がたくさん咲いています。 森が見えます。 遠くに城も

見えます。

ました。すると、女の人が出てきて言いました。 ジャックは城のほうへ歩いていきました。そして、城に着くと、中に入っていきじゃっく しろ ある はい

? ~ 「まあ、あなた、どこから来たの?

子どもを食べるのよ。早く家に帰ょ た た 男の城よ。大 男はここは怖い大 男の城よ。大 男は

なさい」

そのとき、大男の足音が聞こえて

きました。

**ドスン、ドスン** ドスン、ドスン

applicable copyright law.

Copyright ◎ 2015. 大修館書店. All rights reserved. May not be reproduced in any form without

under U.S.

except 4

9

り



「大変だわ! ここに入りなさい」

女の人は、ジャックを台所の大きな鍋の中
おんな ひと じゃっく だいどころ おお なべ なか

へ入れました。

大男が台所へ入ってきました。手に三頭
おおおとこ だいどころ はい

の牛を持っています。

「クン、クン。子どもの臭いだ」

「子どもの臭い? 子どもは、もういません

よ。子どもは、おととい食べたでしょう。 今日は、その牛を食べましょう」

女の人はそう言って、牛を料理しました。

大男はその牛を手で持って一口でなる。

食べました。

ジャックは、鍋の中からそれを見て、

じゃっく
なべなか

びっくりしました。大男は、牛を全部でっくりしました。大男は、牛を全部

食べると、にわとりを持ってきてテーブルたった。

に置きました。そして言いました。

卵を産むんだ!」

すると、にわとりは金の卵を産みました。

大男が、また、

「**卵**たまご !」

と言うと、にわとりは金の卵を産みました。



11

EBSCO Publishing: eBook Collection (EBSCOhost) - printed on 10/24/2016 8:54 AM via JAPAN FOUNDATION AN: 1129883; 佐々木英子, 多言語多読, NPO.; ジャックと豆の木: イギリス民話より = Jack and the beanstalk Account: ns244998 見て、とても喜びました。

お母さんは、金の卵を産むにわとりをかありた。

静かになったので、ジャックが鍋から見る

しず
・なべ
・なべ

と、 大男は寝ていました。 このにわとりがほしい

! お母さんに

にわとりを持って、急いで

森の中を走って、豆の木をものなかしまった。

城を出ました。

ジャックは、

あげたいな

下りて家に帰りました。

0 0 111 111 111 11/

ジャックは、金の卵を売って食べ物や服を買いました。ジャックは、また豆の木にじゃっく きんたまご う た もの ぶく か じゃっく

登りたくなりました。新しい服を着て帽子をかぶって豆の木に登っていきました。のぼ

城に着くと、女の人が出てきました。

「まあ、また子どもだ。だめだめ。帰りなさい。この前来た子どもが、にわとりを

とっていったから、大 男 はとても怒っているんだよ」

それでも、ジャックは言いました。

「お腹がすいています。何かください。昨日から何も食べていないんです」

ジャックが何回も言いましたから、女の人は、ジャックを台所へ連れていきました。じゃっく タヒカルト ト

すると、大男が帰ってきました。ジャックは急いで、また大きな鍋の中に入りますが、 かく いそ まおおとし かえ ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない

ました。

「クン、クン。子どもの臭いだ」

Opyright © 2015. 大修館書店. All rights reserved. May not be reproduced in any form without permission from the publisher, except fair uses permitted under U.S.

applicable copyright law.

ました。そして、晩ご飯をたくさん食べました。食べ終わると、隣の部屋から袋を でも、女の人が「子どもはいない」と言いましたから、大男は、子どものことは忘れいも、女の人が「子どもはいない」と言いましたから、大男は、子どものことは忘れ

二つ持ってきて、中のお金をテーブルの上にふた。も

出しました。

「一枚、二枚、三枚…三 百 枚、三 百 一枚…いちまい にまい さんまい さんびゃくまい さんびゃくいちまい

ああ、眠い…三 百 二枚、三 百 三枚…」

ました。

クー、グー、グー



大男は寝ていました。

一生懸命走って、いっしょうけんめいはし ジャックはすぐにお金の袋をとって城を出ました。そして、じゃっく 豆の木を下りて家に帰りました。 お金の袋を見て、 重い袋を持って森の中なりなりなりなり お母さんは、



とても。喜びました。

服を着て、 また、 ジャックは、 豆の木を登って大男の城に行きました。まめ、きのぼ、おおおとこしるい 城る へ行きたくなりました。

帰ってきましたから、急いでジャックを台所へ連れて
かえ 女の人は「帰りなさい」と言いましたが、大男が

は言いました。 いきました。ジャックが台 所 の鍋の中に入ると、

大おおとこ



「クン、クン。子どもの臭いだ」

「子どもはいませんよ」

忘れました。そして、晩ご飯をたくさん食べてから、 

きれいなハープを持ってきました。 「歌を歌ってくれ!」

大男が言うと、ハープはきれいな音で歌を歌い

はっぷ

始めました。大男はそれを聞きながら寝ました。はは、ままおとこ

ジャックは鍋から出てきて、 すると、そのときです。 ハープを持って走りました。

## 「ご主人さま、ご主人さま」

出しました。

「大変です! 起きてください。起きて

ください」

言いました。

「あ! おまえは、お金と、にわとりを

とった子どもだな!」

ジャックは、大声を出しているハープをじゃっく
、おおごえ だ 持って、一生懸命走りました。



17

EBSCO Publishing : eBook Collection (EBSCOhost) - printed on 10/24/2016 8:54 AM via JAPAN FOUNDATION AN: 1129883 ; 佐々木英子, 多言語多読, NPO.; ジャックと豆の木 : イギリス民話より = Jack and the beanstalk Account: ns244998

きます。



ドスン、ドスン、ドスン どすん どすん どすん

۴ کا

ジャックの後ろを走ってきます。

大きな足音を立てながら、

大帮

、男が おとこ が

ジャックは大急ぎで、豆の木を斧で切りました。木がゆっくり倒れて…じゃっく おおいそ まめ き おの き

## 「あーつ!」

大男が、大きな声を出しました。

ドッスーン

大男は、 高い空の上から落ちて死にました。それからジャックは、たが、そら、うえ、「ぉ」し

楽しく暮らしました。

ヤックは、お母さんと